

令和2年度 第1回桐生市総合戦略推進委員会 議事要旨

○日 時 令和2年7月13日（月）午後6時30分～午後8時30分
○場 所 桐生市市民文化会館 スカイホール
○出席者 32名

【委員】 委 員：桐生商工会議所 会頭 榑山 和久
桐生商店連盟協同組合 副理事長 茂木 理亨
桐生市農業委員会 幹事 今泉 芳雄
桐生広域森林組合 総務部長 栗原 和人
桐生刺繍商工業協同組合 会計理事 松平 朋憲
群馬県桐生みどり振興局 局長 松下 克
群馬大学大学院理工学府 教授 板橋 英之
桐生商業高等学校 教諭 進路指導主事 関口 恵美
桐生信用金庫 専務理事 佐藤 敏彦
足利銀行 桐生支店長 海老沢 智
群馬銀行 桐生支店長兼桐生南支店長 石坂 光紀
桐生公共職業安定所 所長 小林 悟
(株)桐生タイムス社 取締役事業推進室長 小澤 義明
桐生市区長連絡協議会 第3区長 茂木 新司
桐生市社会福祉協議会 常務理事 八町 敏明
(一社)きりゅう市民活動推進ネットワーク 理事長 近藤 圭子
NPO法人キッズバレイ 代表理事 星野 麻実
桐生市PTA連絡協議会 会長 糸井 近夫
桐生市医師会 理事 金子 浩章
桐生青年会議所 副理事長 深澤 佑太
桐生市婦人団体連絡協議会 体育振興部担当 間中 一枝
桐生市総合計画審議会 副会長職経験者 新居 理恵
2015年からの生活交通をつくる会 会長 佐羽 宏之

(欠席者)

委員 長：桐生市総合計画審議会 会長職経験者 宝田 恭之

【桐生市】 市 長 荒木 恵司
副市長 森山 享大
<事務局> 桐生市共創企画部長 新井 利幸
桐生市共創企画部企画課長 田島 規宏
桐生市共創企画部企画課企画戦略担当係長 金子 貴征
桐生市共創企画部企画課企画戦略担当 小松 直也
桐生市共創企画部企画課企画戦略担当 村田 健太
桐生市共創企画部企画課企画戦略担当 伊藤 美和子
桐生市共創企画部企画課大学連携推進担当係長 金子 秀明

【報道関係】 1社

○会議内容

1 開 会 [開始：午後6時30分]

- ・事務局から、過半数以上の委員の出席により会議が成立することを報告。

2 委員の委嘱

- ・各委員へ委嘱状を机上にて交付。

3 挨拶

- ・荒木市長から挨拶。

4 自己紹介

- ・委員及び事務局自己紹介。

5 委員長及び副委員長の選出

- ・委員の互選により、委員長に宝田委員を選出。副委員長は委員長の指名によるが、委員長欠席のため後日選出とする。

6 議 題

- ・議事進行は委員長欠席のため、暫定的措置として荒木市長が行う。

(1) 令和2年度総合戦略事業の概要について

- ・資料1、2、3に基づき、事務局から説明。
- ・4つの基本目標ごとに次のとおり意見交換を実施。

基本目標 1	
委員	桐生武井西工業団地については現在も二区画残っているようだが、桐生は災害が少ないことから、PRするときの宣伝文句として「災害に強い」という言葉が入ったほうが良いのではないかと思う。
事務局	指摘いただいた部分については桐生市においても大変重要なPR要素と捉えており、セールス時には「災害が少ない」、また「地盤がしっかりしている」といった点について、担当がしっかりとPRを行っている。
委員	今回の新型コロナウイルスの問題以降、桐生市の環境自体が様々な面でこれまでと変わってきているのではないかと思う。特に、首都一極集中における問題等の中でこの地域の価値が非常に高まっていると思うので、例えば、企業誘致の活動など、セールス対象の見直しを行う必要があると思う。東京にある中小企業などで、テレワークができない産業、かつ、日本の未来を担っている産業がかなりあると思うので、大規模だと移動とか進出が難しいところに対する対応、非常に小規模な事業者でも移動して来られるような環境づくりといったことが新しいセールスポイントとして出てくるのではないかと思う。戦略は良いが、戦術面での見直しが必要かと思われる。

事務局	<p>桐生市への企業誘致については、桐生武井西工業団地のような大規模な形での工業団地の造成という部分もあるが、工場アパートや既存の狭い土地等、そういったものを有効活用する中で、大企業に限らず、優良な企業がたくさんあると思われるので、そういった企業が桐生に来ていただけるような形でしっかりと戦略を練っていききたい。</p>
荒木市長	<p>桐生の場合、伊勢崎市や太田市みたいな広大な土地を使って企業誘致をするという環境はできないので、桐生の特性を生かした中での企業誘致を進めていくことが委員指摘のとおり大変重要だと思っている。具体的には、先ほど意見があった災害に強いという部分では企業のデータ解析センターなどが考えられ、また、自然や水を生かした企業誘致といった部分もあるので、そういったものもしっかりと検討していかなければならないと思っている。</p> <p>また、アフターコロナ、コロナ後の地方都市のあり方として、テレワーク、教育といった部分の中で、仕事と教育の両立をしっかりと図る施策を打ち出すことも非常に大切であると思っているので、引き続き検討してまいりたい。</p>
委員	<p>先日、500人位居る群馬大学理工学部的一年生全員に「群馬大学発ベンチャーの挑戦」という講演をしたところ、将来起業したいという学生が三分の一にのぼった。今後、起業したいという学生が増えてくると思うので、インキュベーションオフィスを低額で貸すといったところに、是非、学生の起業を応援するといったプログラムを入れていただきたい。</p>
荒木市長	<p>検討させていただきたい。</p>
委員	<p>企業誘致について、国も東京一極集中から地方に企業を移転してもらおうということで、何年か前から本社を東京から地方に移した場合に、法人税を軽減するという措置が取られていると思う。ただ、これはあまり上手くいっていないという話を聞いているが、桐生市においても本社移転に対して企業にメリットとなるような施策を考えていただけるといい。</p>
事務局	<p>工場のほかに、本社機能や研究機関などが桐生市に誘致できると非常に効果は大きいと思っている。そういった本社機能等の誘致については、桐生市においても意見いただいたような形の優遇施策を行っており、これまで上手く誘致できていないという状況はあるが、コロナで状況が変わってきていると思われる。この状況は地方にとってチャンスだと思っているので、これをいかに生かせるかといったところで検討してまいりたい。</p>
委員	<p>思い切って、桐生はタックスヘイブんだというくらいの強いメッセージを打ち出して、是非、誘致していただければと思う。</p>
委員	<p>林業後継者の育成というところで各種団体補助を行うということだが、林業は危険な仕事ということで前回もお話ししたが、先日も新里で伐採中の方が木の下敷き</p>

	になり重体との報道があった。材木を扱う仕事は危険なので、従業員、作業員、山で働く人たちの安全装具の充実を図るため、かなり高額であるこれら装具についても補助の一部として見ていただきたい。
事務局	森林環境譲与税の制度が始まり、国で税金を課して、そのお金が地方に回ってくることになるので、そういった資金を有効に活用して林業の振興に結び付けていきたい、担当課において検討を行っている。
委員	雇用の創出にかなり力を入れるというイメージであるが、桐生の場合は廃業や倒産で雇用が失われる部分が非常に大きいと思うので、廃業を守る、雇用を守っていくという施策に力を入れたほうが良いのではないかと思う。 また、桐生武井西工業団地の雇用者数を KPI に設定しているが、KPI とするならばここに限らず、雇用者数を幅広く捉えたほうが良いのではないかと思う。
事務局	雇用に関しては、創業と合わせて事業承継も大きな部分であるので、市としてどういう応援ができるか、重要なことであると認識している。 桐生武井西工業団地の雇用者数を KPI に設定したことについては、指標として、現在値と目標値が数値として比較しやすい部分があるので、代表的な数値として設定したものである。
基本目標 2	
委員	シティブランディングで魅力的なまちを創るということは大前提であると思うが、持論として桐生版 CCRC に取り組んでみてはどうかと思っている。これは基本目標 3 にも関連するが、桐生市は合計特殊出生率、また、未婚率が県内他市と比べても低い状況が続いていると思うが、このような中、婚活イベントを 2 回ほど主催したが、なかなかそれで上手くいくのは難しいと感じている。 本来、CCRC とは老人、元気なシルバー世代を呼び込むということだろうが、そうではなく、結婚されていない女性で子どもを抱えておられる方々に、是非、桐生に来てほしいという形で、空き家や就職先の斡旋、教育費の全額無償や医療費の支援など特徴を出して、桐生版 CCRC という形でお子さんを抱えている女性に桐生に来て住んでいただく、こんなことを検討していただけたらと思う。
事務局	第 1 期の総合戦略においては、桐生市版もそうだが、国において CCRC の位置付けがあった。国においては「生涯活躍のまち」といった表現で国を挙げて推進していくということで、高齢者にスポットを当てて、元気なアクティブシニアの方々の移住を促進する施策がうたわれたが、そういった方々がもたらす税収など、経済効果の点から日本ではなかなか浸透がなされなかった。このような中、今般、国が第 2 期の総合戦略を策定するに当たり、その辺の見直しを行っており、高齢者だけでなくお子さんをお持ちの女性を含む、多世代の方がいろいろな形で活躍できるコミュニティを創るという意味の「生涯活躍のまち」といった方向に施策の転換を図っている。市としても、ご意見のとおり自然増だけではなかなか人口を増やすことは出来ないと思うので、社会増に関して、高齢者施策というところだけに限らずいろ

	<p>いるな方の移住に関して、ご提案の形も含めて検討してまいりたい。</p>
<p>基本目標 3</p>	
委員	<p>放課後児童クラブについて、コロナの影響で学校が休校になった間、クラブに子どもを預かってもらえて助かったという保護者の声を聞く一方で、クラブ側からは支援員の人数が足りてはいるがびったりな状況ということで、半日や一日でも休めると心の余裕ができて有り難いといった声を聞いた。</p> <p>現在の支援員の募集方法は、まずは希望者が支援員の登録を行い、その後、登録した方に対して市から募集中のクラブ情報がお知らせされるといった流れだと理解しているが、今後も急な対応が必要になることを考えると、例えば、あらかじめ「〇〇小学校の支援員募集」というように、支援員の立場に立って、臨機応変に周りの仲間がサポートに行ける体制が取れるといいのではないかと休校期間を通じて感じた。</p> <p>具体的に聞いた声としては、この日は人が足りないのでちょっと来て欲しいということで「4時間だけ手伝いに来てもらいたい」とか、「明日の午後の3時間だけ手伝いに来てもらいたい」といったものであり、そういった対応ができると現場は助かるとの声であった。</p> <p>私たちも出来ることはやっていきたいが、支援員の募集方法を少し変えれば手伝える人はたくさんいると感じており、桐生のクラブは6年生まで安心して入れるというのは、コロナの時でなくても大変魅力的であると思うので、働く支援員にも心の余裕と身体を休める時間があれば良いなど、このコロナの期間を通じて感じた。</p>
荒木市長	<p>市内の全クラブへ状況確認に行った際、危険を顧みず子ども達のために一生懸命頑張っている支援員の方々の姿を目にする一方で、クラブの開所時間を長く設定したことにより、余裕がなかったりストレスが溜まっていたりなど様々な意見を聞いた。</p> <p>いただいた提案については担当課につなぎ、コロナの第二波に備える中で、今回の教訓を踏まえた支援員の新たな体制について検討してまいりたい。</p>
委員	<p>ネット見守り活動委員会について、どのくらいの期間でどのような活動をしているのか。</p> <p>また、コロナの第二波が来た場合にはオンライン教育の導入ということも考えられると思う。これから桐生市でタブレット端末を購入するが、まだ家庭においてその環境が25%整備されていないと新聞で読んだので、皆が同じような教育を受けられるようにどのように対応するのか。</p>
事務局	<p>ネット見守り活動については、通年において活動している。内容とすると、平成30年度の活動状況になるが、4月～3月の1年間を通して日常的なネットパトロールを行っており、2月と6月にはネット見守り活動委員を対象とした研修会を開催した。また、5月～3月には市内の小・中学校生徒、保護者、幼稚園教諭、地域住民を対象に情報モラル講習会を開催した。</p>

荒木市長	<p>タブレット端末については、7月10日の臨時議会において小・中学生1人1台の配布が決定した。これから国の地方創生臨時交付金を活用してハード面の整備を目指すとともに、先生と子ども両方について対応できるようにソフト面で支援してまいりたい。</p>
委員	<p>中学生海外派遣事業について、コロナなど外的要因により中止となると、せっかく良い事業であるのに成果として0になってしまう。また、生徒数に関わらず各校1人が応募して面接で選ばれた人だけが行けることになるので、例えば、野外活動センターでイングリッシュキャンプを開催するなど、誰でも英語に触れあえる事業があると桐生ならではの特色ある教育につながるのではないかと。</p> <p>また、群馬大学があることから地域に学校があることは非常に有り難いことであると思うが、来年度から桐生高校と桐生女子高校が、桐生南高校と桐生西高が統合されて高校が減る中で、群馬大学がどうになってしまうのかという不安がある。そのような中、中学生海外派遣事業の予算が600万円でサイエンスドクター事業が500万円とあるが、中学生海外派遣事業に行きたい人は自己負担額が増えてでも行きたいと思うので、上手く予算配分をして、群馬大学と何か新しい事業ができると良いと思う。そうすることで桐生の学校に通わせたいと思う人が増え、桐生の人口増加につながるのではないかと。</p>
荒木市長	<p>中学生海外派遣事業は大変人気があり、実際に行った生徒からも行って良かったという話をたくさん聞いている。今年度はコロナの影響で中止になってしまったが、前年度からは滞在日数を増やすなどしてバージョンアップさせており、今後については、予算配分を含め、なるべく多くの人の希望がかなえられるような仕組みを考えてまいりたい。</p> <p>また、桐生ならではの特色ある教育については、本委員会には群馬大学の委員もいるので、知恵を授けていただきながら、桐生に住む子どもしか経験できないような特色ある事業を検討してまいりたい。</p>
委員	<p>コロナで中学生海外派遣事業が中止になったとのことであるが、群馬大学もオープンキャンパスができないので全てWEBでやっている。</p> <p>先ほどタブレット端末を1人1台導入する話があったが、タブレット端末があればZoomのようなWEB会議ができるので、例えば、群馬大学の留学生を通訳にし、海外とつなげて疑似留学のようなことをすれば、実際には海外には行けないが似たような体験ができる。群馬大学の留学生と一緒にやることで桐生ならではの特色ある教育になるのではないかと。</p>
荒木市長	<p>参考にさせていただきたい。</p>
委員	<p>県立高校では、タブレット端末が1人1台整備されるが、桐生商業高校は市立であるので対象とならず、整備が難しい状況である。一般の方々の多くは県立と市立の区別がつかず、当然、桐生商業高校にもタブレット端末が整備されるものと思っており、いざコロナの第二波、第三波が来た場合に、県立高校の生徒はオンライン</p>

	<p>授業ができるが、桐生商業高校ではできず、同じ県内の高校に通っていないながら教育環境に差が出てしまうことを危惧している。</p> <p>また、タブレット端末が1人1台整備されたとしても、通信環境を整備できない家庭もあるので、通信環境の整備も含めて市立高校も県立高校と変わらない支援をお願いしたい。</p> <p>桐生には高校が沢山あり、駅の近くで通いやすく、子どもが学ぶにはとても良い環境であるのに、教育環境に差があるというイメージが付いてしまうのは残念なことであるので、生徒のためにも県立高校と同じような環境の整備をお願いしたい。</p>
荒木市長	<p>県立高校における1人1台のタブレット端末整備の方針が公表されてからすぐに山本県知事へ連絡をして確認したが、市立高校は対象とならないとの回答であった。そこで、12市長会に県知事呼び、桐生と同じように市立高校を所管する前橋、高崎、伊勢崎、太田の首長とともに市立高校へのタブレット端末の整備を強く要望し、また、桐生商業高校は全校生徒の約51%が市外からの通学者ということで、県内から通学している生徒と同じ扱いになるのではないかと申し入れたところである。</p> <p>今後も引き続き県内の市立高校を所管する首長と連携しながら、市立高校のタブレット端末導入について強く要望してまいりたい。</p>
基本目標4	
委員	<p>地域防災力の向上について、桐生は災害が少ないが、今年の台風19号の際は公民館などが混乱し、地域の方々が大変な思いをしたということで、防災・危機管理課ができ、防災に関しての教育に取り組むことになるのだと思うが、高齢者が多いため講習だけでは無理だと思う。いろいろな面を含めて桐生市全体で防災について考えていかないといけないと思うが、いかがか。</p>
事務局	<p>防災については非常に大切なことであると考えており、共創企画部の防災・危機管理課においていろいろ取り組んでいるところである。今年も既に出水期に入っており、いつ桐生で大雨が降るか分からない状況であるので、まずは避難所の対応等についてマニュアルを作成した上で職員の理解を高めるための説明会を開催し、明日にでも大雨が降ったら対応できるようにしたところである。</p> <p>しかしながら、災害時に効果的な動きをするためには、行政だけでなく地元の方々と協力しないとしっかりと対応できないので、地域の方々と協力しながら進め、避難訓練についてもご指摘いただいたような実習も含めて対応してまいりたい。</p>
委員	<p>私が住む3区には避難所が6カ所ある。6カ所も運営委員会を作って担当を配置するとなると地区の人全員を集めないと維持できないような状況であるが、もちろん自治会も含めて全体で取り組んでいかなければならないと思っている。そのような中、災害がいつ起こるか分からない状況であり、九州の豪雨災害のような悲惨な状況にならないように早めに対策をしないといけないと痛感しているのでよろしく願いいたしたい。</p>

事務局	<p>地域によって状況はかなり違うと思うので、地域の方々と話し合い、協力をして、地域ごとの状況に合わせる形で行政としてサポートしてまいりたい。</p>
委員	<p>まず、1点目として防災についてであるが、今般のコロナ騒動を見ると、避難所に人を集めるのは問題があり、また、桐生市においては昨年の台風19号の際に避難所でかなり問題があったと聞いており、新しい避難所の在り方について考える必要がある。「遠くの親戚より近くの他人」という言葉があるが、桐生は空き家が多くあり、ハザードマップにおいて色が全く付いてない地域があるので、日頃から防災協定を個人が結ぶような体制を作るというのも新しい避難の在り方として有りなのではないかと思う。</p> <p>また、基本目標2の観光や移住・定住と関係すると思うが、逆に「近くの親戚より遠くの他人」というように、他県の被災者と桐生市民が事前に協定を結び、いざという時の避難先として連携をすることも将来の移住・定住に結びつく1つの手段であると思う。</p> <p>続いて2点目は、コロナが流行したことにより鉄道やバスを利用することがタブー視されており、全国的に公共交通崩壊の危機が叫ばれている中、桐生近辺においても鉄道やバスの利用者の大幅な減少があり、JRをはじめとして苦境に立たされている。そのような中で、おりひめバスについて、より利用しやすく効率的な運行体系の検討を進めると推進内容に記載があるが、現在公共交通が置かれている実情や働く人のことを考えるとこの目標を達成するのはほぼ不可能ではないかと思う。</p> <p>表記について誤解を招かないような説明が必要であり、また、おりひめバスだけでどうこうしようとせず、総合的な市民の移動を考える交通基本計画を策定するなどの目標を考えないと将来的にまちの中の移動は破綻してしまうのではないかと。最終的に個人交通に依存することで動けない人がたくさん出てしまうまちの姿が見えるので、コンパクトシティ計画と併せて交通基本計画を作成することは非常に重要だと思うので、推進内容に入れていった方がいいのではないかと思う。</p>
事務局	<p>1点目の避難の在り方については、コロナの感染状況や被災状況によってどれだけの人数を避難所に収容できるかという問題があり、分散避難を広報やホームページで広く周知している。避難所に避難するのが最適であれば避難所に避難する方法や親戚等の家に避難する方法を、また、自宅が頑丈であれば2階に避難する方法など、状況に応じた一番安全な避難方法を選択するよう周知しているところである。</p> <p>また、市では、7月10日の臨時会において避難所の備蓄品等について補正予算の議決を得たところであり、必要な物資を確保しながら避難所における感染対策に努めてまいりたい。</p> <p>2点目のおりひめバスについては、委員意見のとおり、おりひめバスだけで全てを補完することは難しいと思うが、現在、来年4月のおりひめバス改編に向けて、皆にとって利用しやすい交通システムになるようにしたいと考えている。併せて、それを補完する交通システムの構築について、行政だけでは難しいので、群馬大学等に知見をいただきながら検討してまいりたい。</p>

委員	<p>避難所については共助となっているので、社会関係資本を活用した仕掛けを取り入れていくことが重要ではないか。そうでないと、市は何をしているのかという批判を浴びることになるのではないかと危惧している。</p>
事務局	<p>補足になるが、桐生市では、災害時に対応するためにいろいろな団体と災害時応援協定を結んでいる。例えば、周辺の自治体や離れた自治体のほか、民間企業と協定を結び、緊急時の避難先確保や緊急物資の支援などに関して連携しているところであり、この取り組みは更に充実させてまいりたい。</p>
荒木市長	<p>防災協定を個人で結ぶというのは非常に大事な要素だと認識している。一般的には、自助・公助・共助と言われているが、ここに近助を加えるのが個の新しい取り組みになると思うので、これからしっかりと検討してまいりたい。</p>
委員	<p>桐生市は推計より早く人口が減っている。人口が減少している状況の中で、空き家が増えて人がばらばらと住むようになると、交通などいろいろな面で非常に不便なまちになってしまう。</p> <p>そこで、コンパクトシティをしっかりと進めていく必要があると思う。コンパクトシティは簡単にはできず、10年、20年と長期的に作り上げていくものであり、桐生市は既にコンパクトシティ計画を策定しているので、市民に周知する中で、居住誘導区域に税制優遇制度などを設けるなどして長期的に取り組んでほしい。実施計画では0予算事業となっているが、もう少し力を入れていく必要があると思う。</p> <p>また、広域的な視点かつ将来を見据えた、地域の特徴に応じたまちづくりの中で、桐生はどうやって生きていくかと考えた時に観光は外せない。桐生には日本遺産が6つもあり、桐生が岡動物園と遊園地など観光資源に恵まれているが、桐生に来てよかったという人もいれば重伝建地区を見て残念だったという人もいる。</p> <p>先進地を見ると、尾道や倉敷は観光ルートが決まっており、特に小布施は一角だけを磨き込んでいる。桐生も全部ではなく、1つのルートだけ作ってそこをしっかりと磨き込み、観光客をしっかりと呼び込めるような施策を考える必要があるのではないかと思う。</p>
事務局	<p>コンパクトシティについては、委員のおっしゃるとおり、桐生市ではコンパクトシティ計画を策定する中で居住誘導区域を設定し、インセンティブを与えるなどしてどのようにその区域へ集約していくかを担当課において検討しているところである。さらに、コンパクトシティに加えてネットワークも必要となり、居住誘導区域と居住誘導区域とを公共交通で結ぶこともこれから検討していくことになる。委員にいただいた意見を踏まえながら担当課において検討してまいりたい。</p> <p>観光のまちづくりについては、桐生初の観光案内所機能を持ち、今年開設したシルクル桐生が観光拠点となる。また、重伝建地区は、一般市民、観光客に公開する施設として、重伝建地区内の元住宅を市で取得し、公開に向けた計画づくりを外部の専門家を招聘して進めているところである。こちらについても重伝建地区の新しい拠点となるポイントとして活用してまいりたい。</p>

委員	<p>地域防災力の向上について、先ほど近助という話があったが、昨年の台風 19 号の際に民生委員が 1 人暮らしの高齢者の避難支援に奔走したということを目にしている。そのような中で、70 歳以上の 1 人暮らしの人のリストを市が作成し、民生委員が訪問する「6.1 調査」というものが毎年行われているが、今年はコロナの影響で中止になってしまったので名簿が作成されなかった。中止は仕方ないが、今年新たに 70 歳になった人や配偶者が亡くなって 1 人暮らしになった方などを民生委員は把握できておらず、また、民生委員の訪問時にこの人が自分の担当の民生委員なのだとは認識する人が多いが、昨年の台風のような状況になった時に、誰に連絡して頼ればいいのか穴が開いてしまっている人がいることを危惧している。調査をせず名簿を作らないのはいいと思うが、それ以外の方法で地区の民生委員等と情報共有できるような仕組みがあるといいのではないかと感じている。</p>
荒木市長	<p>「6.1 調査」が中止になり、一人暮らしの高齢者に注意喚起をするようなチラシを郵送しているが、今まで民生委員の方々にやっていただいた個別訪問のような丁寧な対応ができなくなっているのは事実である。委員にいただいた意見については、担当部署に伝えたい。</p>
委員	<p>地域防災力の向上について、防災教育の予算が 6 万 3 千円とあるが、学校の中で防災訓練を行うだけの防災教育ではなく、専門家に教えてもらう機会があったほうがいいのではないかと。子どもも頼りになる存在であり、今はどこでも災害が多いので、誰でも災害を意識できるよう、子どものうちからしっかり教育をできれば良いと思う。</p>
事務局	<p>防災教育の 6 万 3 千円については外部講師を招聘して防災に関するお話をさせていただくなどの防災教育に特化した費用を予算として計上したものであり、それ以外にも、先生を中心とした学校内での訓練を含めた防災教育など、金額に現れない事業もあるので理解いただきたい。いただいた意見については担当課に伝えて今後検討してもらいたいと思う。</p>
委員	<p>コンパクトシティと並び、スマートシティを国が推進しているが、群馬大学には社会情報学部があるので、群馬大学と連携しながらスマートシティを総合戦略に盛り込んだらいかがか。</p>
事務局	<p>総合戦略は人口減少対策を主眼においた計画であり、昨年度までの状況を踏まえ、委員の皆さんの意見をいただきながら策定した。スマートシティについては、コロナにより新しい生活様式が示される中で、IoT が再び注目されており、RPA や MaaS などの新しいデジタル技術を活用した様々な仕組みをまちづくりに取り入れていくことが考えられる。今後新しい生活様式の定着などを踏まえながら、総合戦略に取り入れていくことについて検討してまいりたい。</p>
委員	<p>スマートシティを打ち出すことによりリモートワーク等が進めば、若い人達が移住してくるような魅力的なまちになるのではないのかと思うので検討をお願いし</p>

	たい。
委員	<p>群馬大学と桐生市の共同申請で、文部科学省の科学技術イノベーションによる地域社会課題解決（DESIGN-i）に全国で大阪市と桐生市の2カ所だけ採択された。その中で、次世代モビリティを使って多世代が楽しい快適な暮らしをするにはどうすればいいのかということを検討していくので、スマートシティも含めて盛り込んでいただきたい。</p> <p>先ほど意見があった観光については、群馬大学には留学生もいるし、大学生にまちの紹介をさせれば大学生の勉強にもなるので、群馬大学と連携して何かやっていたらと思う。</p>

(2) 桐生市総合戦略推進委員会の今後の進め方について

- ・資料4に基づき、事務局から説明
- ・意見等はなし。

(3) その他

委員	<p>先月、桐生市市制施行100周年のロゴマークの募集があり、桐生商業高校ではデザインの授業をしているため、また、市立高校ということもあり、是非応募しようということで授業の中で取り組み始めた。しかしながら、応募方法がコンペ方式で仕事登録を各個人でしないと応募できないシステムになっており、授業で取り組む関係から生徒の個人情報扱うのは難しく、学校でとりまとめて応募できないかと市に問い合わせたところ、報酬の支払いの関係から不可能であるとの回答であり、最小限の人数で個々に応募するしかなかった。</p> <p>桐生市の記念すべきロゴマークの作成ということで、良いものを作りたいということや、コンペ方式であればコストが抑えられるのは分かるが、子ども達を巻き込んでほしかったと残念な思いである。</p> <p>実際、子ども達は選ばれなくても構わないと思うし、高校だけでなく小・中学校にも広めていただき、参加賞も費用がかかると思うので、例えば、小学生の部で何人かに図書カードを贈呈するというだけでも子ども達は喜ぶと思う。</p> <p>また、桐生が100周年を迎えるのだと桐生に気持ちが向くことになるし、小さなことかもしれないが子ども達が桐生を好きになるきっかけになると思うので、子ども達を巻き込むような形でやっていただきたいかと思ひ、残念であった。</p>
事務局	<p>可能であればいろいろな子ども達も参加できるようにすればよかったが、クラウドソーシングを活用する中では、市内を含めより多くの方々に参加していただき、より良いロゴマークを作るだけでなく、桐生のことを知ってもらうということでコンペ方式になった。</p> <p>学校単位では難しいが、個人でならば応募ができると考えたが、配慮が足らず申し訳なかった。</p>

委員	<p>応募サイトが大人向けで、「いくらの時給ならやりますか」というような質問に回答して登録しなければ応募できず、子ども達に個人で申し込むように勧めるのは難しかった。</p> <p>また、個人的な意見であるが、3つの候補のうち1つがマスコットキャラクターのようなものが入っているデザインだが、桐生のマスコットキャラクターがこれになってしまうのかということやキノピーとの位置関係が気になるところである。</p>
事務局	<p>候補となった3つについては、デザインの専門家に選んでいただいたものであり、その中で1つキャラクター性の強いものがあるが、今回のロゴマークは100周年でのロゴマークとして活用するものであって、桐生市のマスコットキャラクターはキノピーであり、その住み分けはしっかりしてまいりたい。</p>

7 その他

- ・事務局から、次回の開催日程について事務連絡。

8 閉 会 [終了：午後8時30分]